



9月の園だより

令和8年9月1日

目黒区立中町保育園 園長

今年の夏、0歳も組に緊急一時保育のお子さんが入り、7・8月の2か月間を一緒に過ごしました。自分たちよりも小さな月齢の友達に関心を持っておもちゃを差し出したり優しく頭をなでたり、日々の遊びの中で触れ合いながら可愛らしいやりとりを重ねていました。保育士が名前を呼ぶと呼ばれている子を指でさし“ここにいるよ”と言いたそうに近づきながら顔を見合わせて微笑み、喃語で“ねえ”と声を掛けるように関わっています。安心できる保育士に見守られながら、一緒にいると楽しいという友達への興味が育ってきました。

各クラスは氷や片栗粉、絵の具等いろいろな素材を使った感触遊びを楽しみ、色水の変化やホースからあふれ出る水に歓声を上げて水遊びやプール遊びを満喫しました。プールじまいは9月4日ですが、暑さに応じてシャワーで汗を流し、心地よく過ごしていきたいと思います。

9月1日は防災の日です。関東大震災が発生したこと、そして暦の上で台風の襲来が多く風水害への警戒が必要な時期でもあり、防災の日として災害への備えを深めるために制定されました。最近は地震や豪雨も頻発し、保育園の避難訓練も重要な役割を担っていると感じさせられます。ご家庭と共に避難場所を確認しながら、子どもたちが安全に避難できるように努めていきたいと思います。引き渡し訓練の実施に合わせて玄関に防災グッズを展示しましたが、子どもの年齢や災害に応じて必要なものを確認し、いざという時に備えて様々な訓練を実施していきます。どうぞよろしくお願いいたします。

みつけた
やさいの
ひ・み・つ



行事予定

引き渡し訓練（全園児）
プールじまい・水遊び終了

中旬 身体計測

たんぽぽ組（1歳児）

「水あげに行こう」と声をかけると、保育室に貼ってあるトマトの写真を指さしたり、テラスへ真っ先に向かったりと毎日の水やりを楽しみにする姿が見られます。赤い実を見つけると、「おー」と拍手して保育士に知らせてくれる子もいました。収穫では顔を近づけて匂いを嗅ぎ、保育士と一緒に摘み取ったトマトを指で触ったり、「あーむ」と食べる真似をするなど、食べることを楽しみにしている様子も見られました。食事では「あー」と自分からトマトを手を持って食べ始めていました。「美味しいね」と声をかけると頬を触ったり、全部食べ終わるとお皿を見せてくれました。その後、給食で出るトマトにもテラスのプランターを指して“あれだよ”と伝えるほど身近になり、みんなで味わい、食を通じた育ち合いとなりました。



ちゅうりっぷ組（2歳児）

育てたオクラを味わった後、大きくなりすぎたオクラを割り、中を見てみるとポロッと種が落ちてきました。「なにか落ちてきたよ」と興味津々です。保育士が「種だね、オクラのおなかにいっぱいあるよ」と言うとオクラの断面に顔を近づけて目一杯覗き込んでいました。しばらく観察すると「これきらきら星だね」と一人の子が断面を指さしながら友達に話しかけ「本当だ、かわいいね」と盛り上がっています。「もっとよく見えるよ」と保育士が目前でオクラスタンプをやってみせると「うわぁ、きらきら星、ここにも、ここにも」と大喜びです。違う箇所にポンポンと押していく子もいれば、同じ場所にひたすら押す子、オクラをぐーっと紙に押し伸ばす子もいて、それぞれが違った表現の仕方スタンプ遊びを楽しんでいました。

育てた野菜を食べる他にも五感で楽しむ遊びが、野菜への興味や親しみのきっかけに繋がっています。



笑顔はじける夏の思い出



ほし組（3歳児）

幼児の仲間入りをして、初めてのプールが始まりました。始まる前から「水着買ったんだよ」「いつプールに入るの」などと、心待ちにしていた子どもたちですが、いざプールの中に入ってみると、少し緊張した様子で肩をすくめていました。手、肩、おなかに水を少しずつ掛けて水の冷たさや心地よさを体で感じます。水が掛かるたびに「きゃー」「冷たい」と声があがり、子どもたちの表情からは笑顔が見え始めました。それからは、歌に合わせて水の中を歩き、ワニやウマ、カエルなど様々な生き物になりきって動いて遊ぶようになりました。すっかりプール活動にも慣れ、今では顔を水につけてみようかと挑戦する子や、両手を底につけて体を浮かせながら足をバタつかせてみようとする子、水の中にある宝物を夢中になって探す子など、子どもたち一人ひとりがやってみたいことを見つけています。友達と楽しさを共感し遊ぶ夏の経験は、さらに興味を広げ友達との関係を深めています。これからも「〇〇しよう」「面白いね」と一緒に遊ぶことを楽しめるように関わっていきます。



つき組（4歳児）

フープやビート板をつかんだ子どもを保育士が引っ張り、水の中で浮く感覚を楽しむことが大好きになっています。ある日、水にあまり顔をつけたことがなかった子が顔をつけている友達の真似をして「顔をつけるから見て」と宣言しました。浮きながらチャブンとつけたかと思うと、その拍子で向かってくる水もザブンとかかり顔が水の中に入ったのでした。保育士も友達も「すごいね」と目を大きくして喜ぶと自分も驚いたものの“できちゃった”という嬉しさから「またやるからみて」と再び見せてくれました。この日の出来事は、次の真似する友達を生み出しました。また、宝さがしの場面では自分から「〇個とれた」といい、数の興味が出てきたので数種類の玩具をプールの水の中に入れて「〇個ずつとってみよう」と考えて遊ぶことも楽しみました。プール活動を積み重ねると生活場面にも変化が現れてきました。意欲的に着替えたり、食が進んだり“やってみよう”“できちゃうかも”と一つひとつの向上心に繋がっています。これからも様々な経験を自信に繋げ、自分の得意なことを伸ばしつつ、友達同士で刺激しあう関係を大事にしていけます。



おひさま組（5歳児）

プール開きの前に一人ひとりが『プールでやりたい事』を発表しました。それを紙に書いて、部屋に貼ってあります。「目を開けて泳げるようになりたい」と書いた子がいるのですが、最近その紙をふと見た同じグループの友達が「ねえ、もう目を開けて泳げるようになってるよね」と嬉しそうにその子に話しかけていました。毎日のプール活動の中で、自分の事だけでなく“友達の姿”もしっかり見ている様子が伝わります。別の場面では「友達のように泳いでみたい」と真似をしてやってみようとしたり「こうやってするといいよ」などアドバイスをもらったりしながら、なりたい自分の姿に近づこうとしていました。「〇〇くん、潜れるようになってるよ」「長い時間、水に顔をつけられるようになったね」と友達に認めてもらった事で、自信がついているようでした。プール活動での経験を今後の運動会にも繋げていきたいと思えます。

